

コミュニティ・スクールだより

No8

地域学校協働活動の様子

地域の住民や団体の皆様の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えていただいております。どの取組も、地域との“つながり・きずな”が実感できるものです。その一部を紹介します。

“もちつき” ペったん ペったん （三ツ城ふれあいDAY）

2年生の国語教材「かさこじそう」では、大晦日お正月に食べるお餅を買うお金もないじいさまが、ばあさまに「餅の一つでも食べさせたい」と、竹で編んだ売り物の笠を五つ持って街に出かけます。ここから話が始まります。昔からお餅は稲の神様を表すもので、神が宿る特別な食べものとして扱われてきました。今でも、お正月、家庭内のお祝い事、季節の節目や地域行事などのお祝い事や特別な日には餅つきをします。皆様方の中にもお正月を迎えるあたり、ご家族でまた仲間内が集まって餅つきをされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

今年も昨年に引き続き多くの皆様のお力をお借りして、全児童が参加しての“餅つき”を行いました。開会行事で地域代表の方の挨拶、校長先生の挨拶が終わると、各臼ではつき手リーダーの指示により餅つきが始まりました。臼の周りでは杵が振り下ろされるたびに、子供たちから「よいしょ！ よいしょ！」の大きな掛け声が響き渡りました。多くの子供たちは昨年も杵を持って餅つきを体験しているとはいえ、重い杵をうまく振り上げられなかったり、振り下ろす際杵を臼のふちに打ちつけたりしていました。多くの子が苦労していたのは、杵を振り下ろした際、タイミングが合わず相手方の杵と自分の杵が臼の中でぶつかり合うことでした。恐る恐る杵を振り下ろしていました。

つきたての餅は、餅板の上でお手伝いの方にこぶし大に切り分けてもらってから、各児童の手元に配られます。餅板を囲んでいた子供たちは、ちぎったところを丸餅の底部分にして丸く形を整えていきました。高学年の児童の中には手首をまわすように、掌の中で転がすようにして上手に丸めていた子もあり、手慣れた作業に感心しました。丸めた餅は、袋に入れて自宅に持ち帰りました。

今回も、住民自治協議会、PTA、広島大学の学生ボランティアなど多くに皆様のご協力並びにご支援を得ています。特に、住民自治協議会の皆様には、当日の運営はもちろんのこと、前日の準備そして後日の片付けまでお世話になりました。ありがとうございました。

